

来訪者管理戦略における次期計画期間の 指標・水準及び対策について

1 経緯

- ・来訪者管理の目標として「望ましい富士登山の在り方」を定義。
①登山の文化的伝統の継承 ②展望景観の維持 ③登山の安全性・快適性の確保)
- ・「望ましい富士登山の在り方」を実現するために指標・水準を設定
2015年（平成27年）を起点として2018年（平成30年）から対策を実施。

●指標設定基準

- ・「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できる。
- ・モニタリングに際し、特別な機材や技術、過度な経費を必要しない。 等

●水準(2019年の目標値)設定基準

- ・定量的な指標は、当初指標設定時の現状値(2015年～2017年の平均値)から10%程度の改善を目指す。

- ・概ね5年ごとに指標・水準の評価・見直しを実施。対策は随時見直す。
- ・第12回学術委員会(2019年(令和元年)10月開催)において、次期計画期間の指標・水準の見直しは行わず対策を継続・強化するという方向性が承認された。

2 指標・水準の評価（詳細は、資料5-2に記載）

(1) 指標

設定した当時から大きな事情の変化はなく、現時点での「望ましい富士登山の在り方」の実現のために最良のものである。

(2) 水準

- ・年によって水準を達成している指標があるが、多くが未達成。
- ・未達成指標の数値の多くがほぼ横ばい。中には水準と現状に乖離があるものがある。

【指標・水準、実績抜粋例】

【指 標】	水準設定時の基準期間			実績		【水準】 2019年の 目標値	
	2015	2016	2017	2018	2019		
伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	69.0%	68.2%	77.7%	82.0%	77.3%	80%以上	
自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
夏山期間を通じて「著しい混雑が発生する登山者数/日」を超えた日数	吉田口	4日	4日	5日	6日	6日	3日以下
	富士宮口	3日	2日	4日	—	3日	2日以下

3 次期計画期間における指標・水準の設定

(1) 指標 現行のものから変更しない。

(2) 水準 現行のものから変更しない。

⇒現行の指標・水準(2019年目標値)と同様とし、引き続き「モニタリング」による検証を継続するとともに「対策」を強化し水準の達成を目指す。

※一部の指標については、現状値と水準の乖離幅があるが、取組期間が2年であることも踏まえ、対策の継続及び強化を行うことで改善を図ることとし、水準の下方修正は行わない。

4 当面の重点目標及び対策

引き続き、登山の安全性・快適性を確保する観点から、極めて限定的に発生している著しい混雑の解消を図ること(平準化)を当面の重点目標とする。

・混雑予想カレンダーの周知

➤ オフィシャルHP、登山用品店等での周知の継続と、作成後2年が経過したチラシのリニューアル

・効果的な「混雑情報等動画」を作成し、情報発信を強化

➤ 動画には、混雑情報に加えて、他の指標(文化的伝統等)の情報も掲載

➤ 世界遺産センターでの放映の検討やHP掲載、広報の工夫

・「世界遺産巡り(アクセスガイドマップ)」の英語版の作成(2019年度)と配布